



14年前の息も凍る冬の日、雪の中から星子を拾いました。固く口が縛られた米袋の中に赤ちゃん犬が7匹。私に気付くと1匹だけ必死で鳴きましたが、他の子たちは動きません。急いで家へ連れ帰り温めると、モゾモゾと体の大きい子から動き始めましたが、手のひらほどの星子は動きませんでした。もう駄目かなと思つたその時、星子の足がゆっくり動き出し「生き返った!」と思わず叫びました。体が弱々しく、一番手が掛かった星子は、大きくなるにつ

れ私を目で追い、そばを離れなくなりました。私の横で安心しきつたように眠る星子。

「私の知らないところで犬が捨てられ、かわいそうに死んでいる。こんなにかわいい犬が…。哀れに死んで行く犬を助けた

捨てられた子犬から

10年目の保護活動

い。でも、活動を始めたら、かわいそうな犬にたくさん出合う事になるだろう。私には堪えられないだろうか…。勇気のない私はなかなか一歩が踏み出せず悩みました。

仕事を終えて外に出た時、檻の中に真つ黒い子犬が3匹、私を見てしっぽを振っています。役場が捕獲し連れて行くところでしたが、子犬の引き取りをお願いし、家に連れて帰りました。くま子、くま太郎、くま五郎は

勇気もない、やり方も分からない、お金もない、パソコンもできない…。無い無い尽くしの私にただ一つあるのは思いだけでしたが、しおんの会を作り活動を続け、8月7日で丸10年になりました。

たくさんの人たちや心を共にしてくれるメンバー、犬たちに助けられ、今日があると心から感謝しています。どうぞ、これからもよろしくお願いします!

犬たちと共にたくさんの方が幸せになりますように…。と願いながら今後も活動を続けていきます。(福澤 智子)

ふくざわ・ともこ NPO
法人ドッグレスキューしおんの会代表

月に一度だけ行く仕事先で、

る決心をしました。